



地域連携
実践教育
プログラム
〜
活動報告
2025

宮城大学
地域連携実践教育推進室

ANNUAL REPORT 2025



公立大学法人

宮城大学
MIYAGI UNIVERSITY



地域と共に学ぶ。

地域連携実践教育について

地域連携実践教育とは

宮城大学では、地域の歴史・文化・資源を活かしたコミュニティづくりや、地域の人びととともに課題解決ができる人材(コミュニティ・プランナー)の育成を目指す教育プログラムを実施しています。主に「講義(座学)+フィールドワーク(実践)」の形式で学びを深めていきます。地域コミュニティの現場に触れ、自らの目でみて・聞いて・体験し、学習することで、地域の人びととともに考えながら、地域本来の良さを活かした、これからのコミュニティづくりの実践手法を習得していきます。

コミュニティ・プランナー／ コミュニティ・プランナー(CP)プログラム

現在、公共機関のまちづくり分野、福祉や医療、商業や農業など、あらゆる分野において、地域主体の視点を持った人材が求められています。本プログラムでは、コミュニティ・プランナーとして、地域が抱える多様な課題の解決や、地域が求める多様なコミュニティづくりに貢献できる人材の育成を目指し、教育プログラムを展開しています。



カリキュラム概要

学群プログラム ▶

基盤教育・
全学必修科目



コミュニティ・
プランナー
アソシエイト

大学院プログラム ▶



コミュニティ・プランナー

単位について

学群プログラムについては、基盤教育科目の「地域フィールドワーク」1科目1単位、CP科目の「CP概論及び演習」「CP実践論」「CPフィールドワーク演習I」「CPフィールドワーク演習II」の4科目6単位、各学群既存科目である「CP関連科目」のうち2領域以上から7科目13単位以上を履修します。合計20単位以上を履修することで、卒業時に宮城大学と兵庫県立大学の連名で『コミュニティ・プランナー アソシエイト』の称号及び証書が授与されます。

大学院プログラムについては、「CP特別演習」「CPプロジェクト研究」の2科目4単位を履修することで修了時に両大学の連名で『コミュニティ・プランナー』の称号及び証書が授与されます。



担当教員一覧

学群を横断し、様々な教員が関わり運営しています

2025年度 地域フィールドワーク 科目担当教員

江角 伸吾教授 / 小沢 晴司教授 / 佐々木 秀之教授 /
高橋 信人教授 / 千葉 克己教授 / 平岡 善浩教授 /
小林 仁教授 / 作田 竜一教授
沢田 淳子准教授 / 上森 貞行准教授 / 後藤 勲准教授 /
庄子 真樹准教授 / 鳥羽 太陽准教授
小野寺 悦子助教 / 大橋 幸恵助教 / 庄子 美智子助教 /
成澤 健助教 / 齊藤 祐輔助教 / 友淵 貴之助教 / 中沢 峻助教
狩野 夏穂特任助教 / 佐藤 加奈絵特任助教

2025年度 コミュニティ・プランナー科目 担当教員

看護学群 江角 伸吾教授
事業構想学群 佐々木 秀之教授 / 千葉 克己教授 / 平岡 善浩教授
宮崎 義久准教授 / 友淵 貴之助教 / 中沢 峻助教
食産業学群 森本 素子教授 / 緩鹿 泰子准教授 / 阿部 希望講師
基盤教育群 狩野 夏穂特任助教 / 佐藤 加奈絵特任助教

地域連携実践教育推進室

高倉 英明特任調査研究員



宮城県内自治体との連携

地域連携実践教育プログラムの開講科目では、フィールドとして宮城県内各地の自治体にご協力をいただき、講義を実施しています。フィールドワークでの調査やヒアリング、自治体職員や地域の方からのレクチャーなど、地域との連携を深めながら実践的な学びのプログラムを展開しています。

2014年度 (平成26年度)

大崎市(古川) CP概論/CP基礎演習

2015年度 (平成27年度)

大崎市(鬼首) CP概論/CP基礎演習
大崎市(古川) CP実践論

2016年度 (平成28年度)

大崎市(岩出山) CP概論/CP基礎演習
大崎市(鬼首) CP実践論
大崎市(古川) CPFWD演習

2017年度 (平成29年度)

大和町 地域FW
富谷市 地域FW
利府町 地域FW
蔵王町 地域FW
大崎市(岩出山) CP実践論
大崎市(鬼首) CPFWD演習

2018年度 (平成30年度)

美里町 地域FW/CP実践論
東松島市 地域FW
加美町 地域FW
岩沼市 地域FW
白石市 地域FW
村田町 地域FW
丸森町(耕野) CP実践論
大崎市(岩出山) CPFWD演習

2019年度 (令和元年度)

大崎市(松山) 地域FW/CP実践論
加美町 地域FW
美里町 地域FW
女川町 地域FW
亶理町 地域FW
白石市 地域FW/CP実践論
石巻市(牡鹿) CP概論及び演習/CP実践論
富谷市 CP実践論
大崎市(古川) CPFWD演習
大崎市(鳴子) CPFWD演習
仙台市 CPFWD演習
丸森町 CPFWD演習

2020年度 (令和2年度)

大崎市(田尻) 地域FW
女川町 地域FW
亶理町 地域FW/CP実践論
白石市 CP実践論/CPFWD演習
富谷市 CPFWD演習
石巻市(牡鹿) CPFWD演習
大崎市(古川) CPFWD演習
仙台市 CPFWD演習
(中心街、根白石、坪沼)

2021年度 (令和3年度)

大崎市(鹿島台) 地域FW
女川町 地域FW
亶理町 地域FW/CPFWD演習
七ヶ浜町 CP実践論
村田町 CP実践論
栗原市 CPFWD演習
東松島市 CPFWD演習
富谷市 CPFWD演習
仙台市 CPFWD演習
(根白石、人來田)
名取市(関上) CPFWD演習

2022年度 (令和4年度)

大崎市(三本木) 地域FW
女川町 地域FW
村田町 地域FW
亶理町 地域FW
柴田町 CP実践論
仙台市(秋保) CP実践論
石巻市(市内、雄勝) CPFWD演習
大崎市(岩出山) CPFWD演習
蔵王町 CPFWD演習
利府町 CPFWD演習

2023年度 (令和5年度)

大崎市(鳴子) 地域FW
塩竈市 地域FW
女川町 地域FW
村田町 地域FW
亶理町 地域FW
県南地域(2市9町※) CP実践論
大崎市(古川) CPFWD演習
塩竈市(浦戸諸島) CPFWD演習
松島町 CPFWD演習
仙台市 CP実践論/CPFWD演習
(泉区泉中央・将監、太白区秋保・長町南)

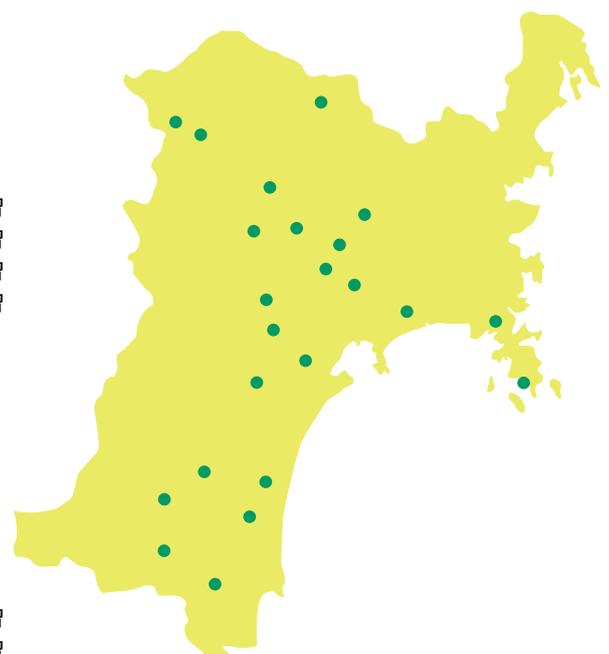
※ガーデンツーリズムに取り組む「みやぎハーモニー花回廊推進協議会」との連携により実施

2024年度 (令和6年度)

大崎市(岩出山) 地域FW
塩竈市(浦戸諸島) 地域FW
加美町 地域FW
女川町 地域FW
石巻市 地域FW
栗原市(一迫) CP実践論
仙台市(太白区秋保) CP実践論
七ヶ浜町 CPFWD演習Ⅰ・Ⅱ
名取市(関上) CPFWD演習Ⅰ・Ⅱ
柴田町 CPFWD演習Ⅰ・Ⅱ

2025年度 (令和7年度)

加美町 地域FW
蔵王町 地域FW
白石市 地域FW/CP実践論
石巻市 地域FW
仙台市 CP実践論/CPFWD演習Ⅰ・Ⅱ
(青葉区みやぎ台、太白区秋保)
大和町 CPFWD演習Ⅰ・Ⅱ
東松島市 CPFWD演習Ⅰ・Ⅱ
多賀城市 CPFWD演習Ⅰ・Ⅱ
名取市(関上) CPFWD演習Ⅰ・Ⅱ



大きな自然災害を経験した兵庫県立大学と宮城大学が、密接な連携体制のもと、コミュニティ・プランナープログラムの構築を進めてきました。現在でも被災地に立地する公立大学として互いの強みを生かし、プログラムを共同で展開しています。

兵庫県立大学との連携

兵庫県立大学

- 神戸商科キャンパス
(大学本部・国際商経学部 ほか)
- 姫路工学キャンパス(工学部 ほか)
- 播磨理学キャンパス(理学部 ほか)
- 姫路環境人間キャンパス
(環境人間学部 ほか)
- 明石看護キャンパス(看護学部 ほか)
- 淡路緑景観キャンパス
(緑環境景観マネジメント研究科 ほか)
(ほか、9つのキャンパス)

宮城大学

- 大和キャンパス
(事業構想学群・看護学群)
- 太白キャンパス
(食産業学群)



CP科目合同発表会及び交流会 (2025年12月20日 10:00-12:10)

兵庫県立大学と宮城大学の学生が、遠隔会議システム(Teams)を使って、CP実践論・CPFWS演習Ⅰ・Ⅱの合同発表会及び交流会を実施しました。宮城大学と兵庫県立大学の3年生が、講義を通して検討したプロジェクトやプロジェクトの実施による成果を発表したのち、両大学の2年生も交えたグループに分かれ、ディスカッションに取り組みました。

CP科目合同発表会及び交流会(過年度の様子)▶
※2025年度はオンライン開催



学生交流

兵庫県立大学と宮城大学の学生・教員が、互いに大学を訪問し、各大学が開講する講義に参加しました。検討したプロジェクトの発表や学生交流、フィールド視察を通じて、学びを共有しました。

宮城大学(2025年10月29日)

場所: 宮城大学大和キャンパス(宮城県黒川郡大和町)、宮城県富谷市内
内容: 宮城大学「CP実践論」(2年次)の見学・「CPフィールドワーク演習」(3年次)における学生交流、フィールド視察(富谷市)

兵庫県立大学(2026年2月28日-3月1日)

場所: 兵庫県立大学姫路環境人間キャンパス(兵庫県姫路市)、兵庫県姫路市内、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター(兵庫県神戸市)
内容: 兵庫県立大学「地域プロジェクト演習」(2年次)における学生交流、フィールド(姫路市)及び復興関連施設(人と防災未来センター)視察



2025年度前期(1年次 全学群 必修科目)

地域フィールドワーク

指定日開講・集中講義 | 全4回 | 履修学生:444名



フィールドから学びや気づきを得る

宮城大学における基盤教育に位置付けられ、1年次の全学群必修科目として開講しています。この科目では、地域の自然・歴史・文化等を学びながら、グループワークやフィールドワークを通して地域の魅力や課題など、様々な気づきを促します。そして、地域社会の将来に対する使命感を涵養し、今後の大学生活における主体的な学びに向けた動機づけとすることも目指しています。

2025年度は、加美町、蔵王町、白石市、石巻市の4自治体をフィールドとしました。自治体のご協力のもと、看護学群、事業構想学群、食産業学群の学生444名が受講し、フィールドと関わりながら学びや気づきを得ました。

本講義では、自治体職員の方々によるレクチャー、学生同士によるグループワークをはじめ、学生各自が設定したテーマから地域を捉え、基礎的な調査に取り組みました。

また、本科目のメインプログラムである現地フィールドワークを行い、公共施設、企業、住民団体、NPO等を訪問し、地域の魅力や課題を調査しました。グループごとに調査を振り返り、フィールドワークで得た成果や課題等を確認・共有しました。講義の総括として、テーマ設定の背景・目的・調査結果・分析等をまとめた「地域調査のまとめ」を作成し、プレゼンテーションを行いました。



住民同士の関わりから育まれる地域の暮らしを捉える | 加美町 看護学群

加美町は、2003年4月に中新田町・小野田町・宮崎町が合併し誕生した町です。学生たちは、旭地区（旧宮崎町）で取り組まれている地域運営組織の活動や保健師の地域における役割に関するレクチャーをはじめ、閉校舎の利活用が検討される旧旭小学校やふるさと陶芸館・ゆ〜らんの見学をしました。中新田地区（旧中新田町）に移動し、開館以来"田んぼの中のコンサートホール"として注目を集めるバッハホールで、パイプオルガン奏者の方から演奏とレクチャーをいただき、中新田地区商店街周辺を散策しました。地区ごとに継承されてきた歴史・文化等の特性を感じるとともに、地域の方々が大切に育んできた地域資源や生活の様子に触れ、地域コミュニティでの暮らしとその生活を支える人々の役割に目を向け、気づきを得る時間となりました。



自治体の政策と地域とのつながりを捉え生活風景から学ぶ | 白石市 事業構想学群

白石市は、人口減少という逆風の中、市民と行政が一体となって新たな価値の創造に挑戦しています。白石市の新しい取り組みとして、新設される予定のスマートインターチェンジや防災機能を備えた道の駅の整備予定地を見学し、2024年7月に史実に基づき三階櫓（天守閣）を復元した白石城を見学しました。白石市内の市街地には、1730年に建てられた宮城県指定文化財にも指定されている貴重な武家屋敷（旧小関家）を訪れ、当時の武士の文化にも触れました。移住交流サポートセンターや商店街の方々へのインタビューを通じて、地域の強みや課題について視点を深め、行政が取り組むまちづくりの政策と住民の生活によって培われてきたまちの風景を体感し、地域が形づくられる過程や特徴を捉えて主体的な学びにつながる機会となりました。



豊かな自然資源を活かした観光地の特性から地域を知る | 蔵王町 事業構想学群

蔵王町の遠刈田温泉は、古くから信仰登山の基地や湯治場として親しまれ、宮城蔵王の観光拠点として県内外から観光客が訪れる地域です。2024年に開設した蔵王ジオパークセンターを起点に、岩崎山金窟址、みやぎ蔵王こけし館、神の湯において地域の方々からレクチャーをいただくとともに、遠刈田温泉街での散策を通じて商店の方々へのインタビューを行いました。鉱山や温泉といった自然資源を活かして人々によって育まれてきた土地の特徴や歴史を体感しつつ、住民や商店の方々の日常における視点にも触れ、観光地としての魅力や課題を捉える機会となりました。



津波伝承と中心市街地での取組から今後の復興まちづくりを考える | 石巻市 食産業学群

石巻市では、東日本大震災の被災を乗り越え、中心市街地の活性化をはじめとした復興まちづくりに取り組んでいます。津波火災による被災状況を残す全国で唯一の震災遺構「石巻市震災遺構門脇小学校」では、多くの悲劇があった震災の状況や、伝承するにあたっての想いに触れました。中心市街地の散策では、沿岸部ならではの海産物、マンガ等の地域資源を活用した復興まちづくりに取り組む方々からお話を伺いました。まちづくりにおける課題や展望、自分たちの役割を学び、これからの復興まちづくりを考えるうえでの視点を学ぶ機会となりました。



2025年度前期(2年次 全学群 共通選択科目)

CP概論及び演習

全15回 | 履修学生:29名



必要な基礎知識の習得

コミュニティ・プランナープログラムの2年次前期の科目として開講しています。この科目では、調査・企画力、ワークショップ運営やヒアリング技術など、コミュニティ・プランナーとしてフィールドに出た際に必要なリテラシーを学び、地域の方々のパートナーとして課題解決に貢献できる基礎知識の習得を目指します。

前半の講義では、さまざまな地域コミュニティのあり方を学びながら、学生自身とコミュニティとの関わり方について個人ワークで検討し、コミュニティ・プランナーの役割や姿勢について捉えていきました。また、地域の現状を把握する手法を、空間・生活の視点でそれぞれの専門分野の教員から学び

ました。さらに、地域の活動者をゲストに招き、活動のきっかけや思い、捉えている課題、活動の仕組み、地域との関わり方等をうかがい、コミュニティ・プランナーのイメージを掴んでいきました。

これらを踏まえて後半では、地域におけるプランニングに必要なリテラシーの一つである「プロジェクトマネジメント」を学びながら、グループごとにプロジェクトを具体的に検討していきました。その過程を通して、プランニングの基本的な手法や考え方について理解を深めていきました。グループワークでは、ファシリテーションや議論の可視化にも注力し、現場で活用できる技術の習得にも努めました。

大和キャンパス

大和キャンパスでは、事業構想学群の学生が受講しています。コミュニティ・プランナーとしての基礎知識・技術の習得に向けて、本学教員による講義のほか、学外からゲストを迎えて実施しています。5月14日には、森谷氏(富谷市役所)からRESASやe-stat等のオープンデータを用いた調査手法を学びました。また、6月25日には、卒業生である池田氏(石巻商工会議所)・八田氏(株式会社藤崎)からレクチャーいただき、CPを通じた取り組みや学び、現在の職業との関連といった観点から、コミュニティ・プランナーの人材像を具体的に捉えていきました。



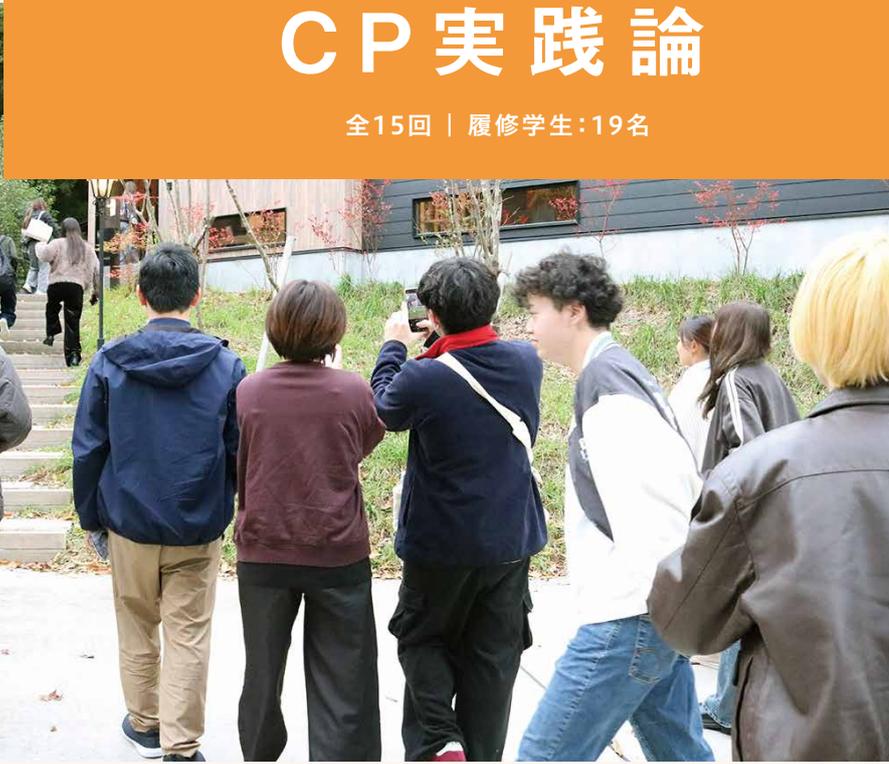
太白キャンパス

太白キャンパスでは、食産業学群の学生が受講しています。講義の前半では、コミュニティ・プランナーに必要な基礎知識の習得を目指しました。地域の現状を把握するための手法や活動のしくみなどについて、教員だけでなく、宮城県内で活動している方々を講師に招き、講義やワークショップを通じて地域課題の抽出や解決方法について学ぶとともに、地域コミュニティのあり方を掴みました。また、後半ではフィールドワークで得た、地域が抱えている課題に対して、その解決策や地域と関わり方を検討しました。



CP実践論

全15回 | 履修学生:19名



トップランナーから実践を知る

「CP概論及び演習」に続く2年次後期の科目として開講しています。地域コミュニティに関わる専門家とのフィールドワーク、類似事例の把握や現場での体験を通して、地域活性化策を実行するプロセスへの理解を深め、より実践的な提案のための知識・技術の習得と、学びの深化をねらいとしています。

2025年度の履修学生は、大和キャンパスは白石市、太白キャンパスは仙台市太白区秋保地区を対象に講義を進めていきました。前半では、地域づくりの実践者によるレクチャーを通して、対象エリアの理解を深めるとともに、現状の課題を整理しながらコミュニティ・プランナーの果たすべき役割についてグループで検討を重ねました。サイトビジットでは、事前調査を踏まえて、現場でしか得られない情

報を収集するために、対象エリアを歩いたり、地域住民の方々にヒアリングを行う等、さまざまなアプローチを行いました。現場で得た情報を踏まえて、地域コミュニティの豊かな活動が地域の活性化につながるよう、具体的なプロジェクトの検討を進めました。

後半では、グループワークにおけるアイデアの創出方法や、企画から提案までのプロセスを学び、その成果をプロジェクト立案に活かす実践的な学習を蓄積していきました。最終講義では、お世話になった地域の方々への成果報告の場として、グループごとに発表が行われ、実施に至る背景や必要性、地域コミュニティとの関わり方を含めたプロジェクト提案を行いました。

大和キャンパス 事業構想学群

事業構想学群では、株式会社ガイアと連携し同社が管理する白石市蔵本地区にある古民家「我妻住宅」の利活用を題材に、企画立案のプロセスを学びました。我妻住宅は、木造の壮大な母屋、馬屋・土蔵・庭があり、臥龍松が一際目を惹く歴史的な家屋です。本科目では、学生たちが5つのグループに分かれ、古民家の利活用プロジェクトを検討しました。

現地フィールドワーク(11月5日)では、我妻住宅の見学を通じて、広大な敷地を管理するうえでの課題を説明いただきました。また、蔵王町にある別荘一棟貸し宿泊施設「ガイアリゾート蔵王山水苑」を見学し、株式会社ガイアの事業と地域づくりに対する想いに触れました。最終講義(12月24日)では、株式会社ガイアの代表取締役 相澤氏、専務取締役 宇田川氏・永倉氏をゲストに迎え、我妻住宅の歴史が感じられるようなカフェの運営や、静かな環境を活かした合宿企画等の幅広い活用策やプロジェクト計画が発表されました。



太白キャンパス 食産業学群

食産業学群では、2025年度は、仙台市太白区秋保境野地区を対象に実践的な取り組みを行いました。準備段階として、秋保境野地区の方々からのレクチャーをもとに、対象エリアの現状と課題を把握し、コミュニティ・プランナーとして地域活性化に結びつけるための具対的なプロジェクトを検討しました。また、サイトビジットでは近隣地域で、これまで数多くの新たなプロジェクトに組んできた事業者に話を伺い、実践的な活動に対する知識や技術について学びを深めました。実践段階では、対象地域の課題解決と活性化に向けて、企画から提案までのプロジェクトの立案に取り組みました。この成果を対象地域の方々に報告し、地域で自走可能なプロジェクトの提案を行いました。



CPフィールドワーク演習

指定日開講・集中講義 | 履修学生:33名



知能を技能に変える実習

CPプログラムの学群教育における最終科目として開講しています。コミュニティ再生の実践的経験を通じて、コミュニティ・プランナーとしての職能を理解しつつ、多様なステークホルダーとの協働手法を習得することを目指しています。

本科目の履修学生は、大和・太白両キャンパス合わせて6つのチームを編成し、大和町、東松島市、多賀城市、名取市閑上地区、仙台市青葉区みやぎ台地区、仙台市太白区秋保地区を対象に、地域課題を把握した上でコミュニティ・プランナーとしてのアプローチを実践していきました。

チームごとに設定したテーマ・エリアに基づい

て、学生自身の主体的なフィールドワークを中心にフィールドのカウンターパートと連携しながらプロジェクトを立案する経験を通じて、地域と共創するプロセスについて学びを深めます。講義はPBL (Project Based Learning) 形式で展開し、プロジェクトの企画立案・実施に取り組みました。

また、本科目では、CPプログラムを履修した先輩学生がSA(スチューデント・アシスタント)として参加するほか、両キャンパス合同による振り返りを実施し、学生同士が視点を共有し合うことで、一連のプロセスを経験して得た学びと理解の深化につなげていきました。



地域の“ちょっと面白い場所”をきっかけに

チームで謎を解きながら住民同士の多世代交流を促す機会をつくる | 仙台市青葉区みやぎ台

事業構想学群

1970年代にニュータウンとして開発された仙台市青葉区みやぎ台を対象地域としたチーム(学生6名)では、現地調査を進める中で、地域住民によるサークル活動が活発であり多様な世代が暮らす地域である一方で、地域内の子ども世代・大人世代が交流する機会が少ないことが分かってきました。

住民同士の多世代交流を促進しみやぎ台の魅力を再発見する機会づくりを目指し、地域内に設定したクイズを解いて地域を回遊する、謎解きウォークラリー「みやぎ台×宮城大 みやぎダイ発見謎解きラリー」を企画実施(9/28)しました。謎解きウォークラリーでは、既存アプリを活用して、学生たちが現地調査を通して見つけたみやぎ台の“ちょっと面白い場所”をモチーフに考案したクイズが出題されます。アプリで示される各スポットをチームごとに歩いて回り、クイズに答えながらヒントを集め、最後に、全チームが集めたヒントを持ち寄り参加者全員で謎解きを完成させていきました。

※大沢市民センター、みやぎ台町内会、住民の皆様、矢口秀夫様に御協力いただきました。



スライドをまとめる ポイント

チームビルディングにおいてポイントとなる「やりたいこと(テーマ)×地域(エリア)」の選定プロセスを整理しています。

チーム結成の背景

つながる一歩の結成は…

・中山間地域で活動してみたい
・地域のコミュニティ形成に関わってみたい
という共通点



車を持っている人がいないため、
公共交通機関を利用して行くことが可能な
仙台市内で活動したい

そこで…

宮城県ホームページにある
「**振興山村指定地域一覧**」を参考にし、地域を選定！

山村振興法に基づき下記の要件を満たすものから知事の申請に基づき、主務大臣(国土交通省、総務大臣、農林水産大臣)が関係機関の長と協議し、かつ国土審議会の意見を聴いて指定した地域。

- ・林野率が75%以上
- ・人口密度1.16% (1960年農林業センサスによる) 未滿
- ・公共施設の整備が十分に行われていないため、当該区域における経済力の培養及び住民の福祉の向上が阻害されていること

3

<https://www.pref.miyagi.jp/site/tikisinkou/sansonsinko.html>

宮城大学生と大和町、町民同士の距離感を近づける

「人」の温かみに焦点を当てた雑誌で会話のきっかけづくりを目指す | 大和町

事業構想学群

宮城大学大和キャンパスが立地する大和町は、仙台市に隣接し、工業団地・住宅地が立地する都市的な特徴と、セツ森に代表される自然や豊かな文化を有する町です。学生たち(6名)は、普段の学生生活で感じる人とのつながりの不足感と関係人口としての学生という視点から、人との温かい距離感を感じられる大和町を対象地域として地域課題の把握と解決策の検討に取り組みました。

現地調査を行う中で、移住者の増加や新型コロナウイルスを契機とした町内行事の縮小によって大和町の住民同士でも個人化が進みつつある状況が分かってきました。会話のきっかけづくり、住民同士の相互理解を促すことや大和キャンパスに通学する学生が大和町を身近に感じて足を運ぶことを目指し、町民6名にインタビューを行い、その内容をまとめた冊子「大和町おとなり情報誌 わっ!」を発行しました。制作した冊子は、インタビューに御協力いただいた町内店舗や大和町役場、大和キャンパスに配架しています。

※大和町町民の皆様、大和町役場に御協力いただきました。



スライドをまとめる ポイント

自分たちがすべきことは何か・何が
できるのか(自分資源)を考え、
地域調査で生まれた変化を整理しています。

調査を始めてから

大和町でも個人化が進んでいる

- ・ 地域をよくするための活動で写真を撮ったら不審者と勘違いされた
- ・ 近年大和町に30~40代の移住者がかなり増加したが、コロナウイルスをきっかけに町内運動会やお祭りなどの交流行事が消滅・縮小したこともあり、周りに誰が住んでいるのか把握できなくなってしまった。

学生が大和町を知ることも大事だが、
大和町の住民も、大和町の人のことを知るべきなのは？



雑誌を通して
会話のきっかけを作り、同じ地域に住む人への理解を高めて暮らしの安心度を
高める

地域の魅力を伝えるにはどうしたら良いか？

飲食店への取材を行い、地域の人たちの想いが詰まったガイドブックを制作 | 仙台市秋保

食産業学群

仙台市太白区秋保を対象としたチーム(学生4名)は、秋保の魅力をより多くの人に伝えたいという想いから、ガイドブックの制作を企画し、取材・撮影から編集まで行いました。

観光地として人気の秋保では、温泉街のある湯元地区とその周辺の観光スポットを紹介する様々なガイドブックが設置されていました。学生らは湯元地区だけではなく、若い世代の交流人口の拡大が課題となっている馬場・長袋・境野地区も対象に、「食」をメインとしたガイドブックを制作することを立案しました。飲食店へインタビューを行い、現地の人々の想いを読者に伝えるための工夫を施しました。ガイドブックには、紹介した店舗で使えるお得なクーポン券をつけ、秋保観光を楽しめる1冊となりました。

完成したガイドブックは宮城大学の大学祭にて配布し、その際、秋保境野産のそばとネギを使った「かけそば」の提供ブースを出店しました。秋保の魅力を紹介しながらガイドブックを手渡しし、関係人口の創出につなげました。

※さかいの地区創生会、秋保・里センター、公益財団法人仙台観光国際協会、各飲食店の皆様に御協力いただきました。

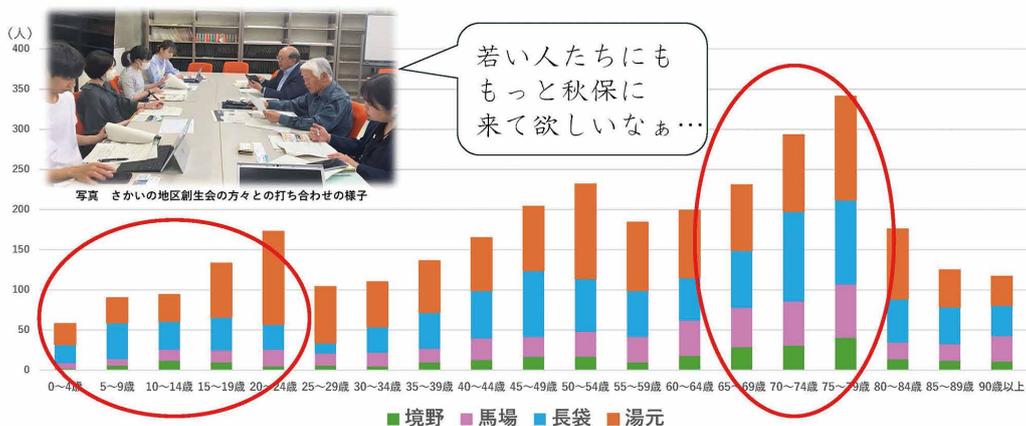


スライドをまとめる ポイント

事前調査や地域の方々との打ち合わせで分かったことを整理することで、地域の現状や課題を客観的に捉えることができます。

<現状>

秋保地域 年齢別人口 (湯元・馬場・長袋・境野)



出典：「町名別年齢(各歳)別住民基本台帳人口(令和7年10月1日)」より作成

東日本大震災の風化に対する危機感を捉えて

震災復興の記憶と語りを伝え、地域の声に耳を傾け知る機会を提供する | 名取市閑上

事業構想学群

名取市は、仙台市に隣接する交通の要衝の地であり、豊かな自然・歴史と都市の魅力が融合しています。中でも、古くから港町として栄えた閑上地区は、東日本大震災で津波による甚大な被害を受けた地域であり、今回、名取市閑上を対象としたチーム(学生6名)は、震災復興をテーマに現地での調査を進めました。地区内を歩き施設でのヒアリングを行う中で、震災の記憶が風化していくことへの懸念や、「観光客や震災を経験していない方々はいざというときに避難の仕方がわからないのでは」という課題感を見出し、地域の声を伝え震災復興の経験と学びをつなぐマップ制作に取り組みました。

11/16には閑上の記憶で、語り部として活動を体験するとともに本講義を通じた取り組みについて報告を行いました。制作したマップは、インタビューに御協力いただいた閑上地区内の施設と名取市役所に配架しています。

※名取市サイクルスポーツセンター、名取市震災復興伝承館、みちのく潮風トレイル名取トレイルセンター、閑上の記憶、名取市役所の皆様に御協力いただきました。



スライドをまとめる ポイント

フィールドワーク中の写真やインタビュー内容は、その都度まとめ、プロジェクト実施までの経験を記録しています。

[フィールドワーク]

0907 みちのく潮風トレイル 名取トレイルセンター



～インタビュー～

「みちのく潮風トレイル」の情報を発信する施設。トレイルを歩く人、また地域の人が寛ぎ交流できる空間。

閑上は豊かな自然を発見出来る場所、閑上の震災に関する学びを得る場所も多くある。

名取トレイルセンターが閑上にある良かった、とっていただけるような魅力がある施設にしていきたい。

人の温かさと地域が持つ資源の可能性への気づきを原動力に

「目的地」として訪れるまちを目指して地域の価値を伝える | 東松島市

事業構想学群

県内第2の都市である石巻市と日本三景を有する松島町に隣接し豊かな自然と都市機能を備えている東松島市を対象とした学生たち(4名)は、東松島市を、通過点としてではなく目的地として立ち寄るためのきっかけづくりにつなげようと、検討していきました。現地調査を進める中で、プライベート感のある自然環境や地域の方々の温かい人柄に触れ、捉えた地域の価値を発信し周辺エリアから人の訪問を促すことを目指して、仙台圏の親子をターゲットとしたワークショップを立案しました。

ヒアリングや市内でのイベントへの参加を通して「東松島ならではの」特色ある場所や素材を探る過程で、海岸ごとに漂着する貝殻の種類が違うことに着目してアイデアを具体化させていきました。見出した地域資源や活動プロセスを伝えるInstagramを開設し、魅力発信へとつなげるとともに、仙台圏への情報発信・広報活動を踏まえて、貝殻を用いた親子向けのワークショップ(10/19・11/2)を企画・実施しました。

※市民団体「バーバー」「H×Imagine」、東松島市役所の皆様に御協力いただきました。



スライドをまとめる ポイント

写真や数字を用いてイベント中の様子を記録し、地域で実践した結果を可視化して具体的に状況を共有していきます。

【親子向け貝殻WS フォローアップイベント】

時間：10:00-13:00
場所：KIBOTCHA
内容：貝殻アート体験
貝殻ライト工作セット

参加者集計：大人16名 子供19名 計35名

居住地：東松島 13人

仙台 1人 一関 1人

つくば 2人 石巻 14人

大崎市(鹿島台) 2人 塩釜 2人

工作物：貝殻ライト工作セット 2個

貝殻アート 25個



変化し続けるまちと人の移り変わりに目を向ける

「暮らしの記憶」を可視化して住民同士のコミュニケーションを促す | 多賀城市

事業構想学群

多賀城市は、奈良・平安時代に国府多賀城が設置され古代東北の政治・文化・軍事の中心地として栄えた歴史を有する自治体です。チーム(学生7名)で現地調査を進める中、歴史的な魅力や市民活動の活発さといった強みや、仙台市に隣接するベッドタウンの特性を持ち、働き手世代と地域との交流が少なくなってきたという課題を捉えていきました。

まちと人の移り変わりを暮らしの記憶として可視化し、世代を越えた住民同士の交流促進・愛着形成につながるよう、参加型アートプロジェクト「多賀城記憶の壁」を企画・実施しました。1950年代以降の市内の写真と出来事を整理した年表に、思い出やコメントを自由に書いて付箋で貼り、参加者と一緒に制作していきます。たがマルシェ(10/12)や高橋商店会はしご市(11/9)への出展、多賀城市市民活動サポートセンターでの展示(10/3~11、10/13~19)を行い、地域に暮らす方々の声からまちの歴史を形にしていきました。

※多賀城マルシェ実行委員会、高橋商店会、多賀城市市民活動サポートセンター、多賀城市役所、NPO法人 20世紀アーカイブ仙台の皆様にご協力いただきました。



スライドをまとめる ポイント

時限的な関わりの中でも、
チームとしての終着点をカウンターパートと
合意・納得して取り組むことが大切です。

▼ 今後の見通し 完成作品(実物)の取り扱い

「記憶の壁」の実物は たがマルシェに寄贈

今回の講義のチームは
解散してしまうが取り組みも
たがマルシェに引き継ぎたい
(12/10時点では未決定)



活動実績・メディア掲載

2017年度（平成29年度）

Web媒体（自治体）

▶大和町Webサイト掲載

宮城大学地域フィールドワーク「宮城大学生がまち歩きを実施」
<https://www.town.taiwa.miyagi.jp/soshiki/matisei/5419.html>
(地域フィールドワーク)

▶富谷市Facebookページ掲載6月17日、7月1日、7月8日、8月8日
(地域フィールドワーク)

▶大崎市Webサイト掲載

大崎市 フォトニュース「宮城大学生が大崎市の地域活性化のため活動しました」

<http://www.city.osaki.miyagi.jp/index.cfm/35,22400.html>
(CP科目)

自治体広報誌

▶広報たいわ 8月号掲載「宮城大学生がまち歩きを実施」
(地域フィールドワーク)

▶広報りふ 8月号掲載「利府町×宮城大学 連携事業 地域フィールドワーク」

▶広報たいわ「たいわのわ」連載2017年10月号～2018年2月号
(地域フィールドワーク7月1日講義)

テレビ

▶東北放送 Nスタみやぎ2017年7月1日放送
(地域フィールドワーク7月1日講義)

新聞

▶河北新報 2017年8月21日掲載(地域フィールドワーク8月8日講義)

▶日本経済新聞 2018年1月27日掲載(地域フィールドワーク)

▶日本経済新聞 Web版 2018年1月27日掲載(地域フィールドワーク)

▶河北新報 2018年1月28日掲載(復興人材育成セミナー)

事例集

▶一般社団法人公立大学協会(2018)

『公立大学の地域貢献機能 地域貢献プログラムの“LEAD”による事例分析』

p.9「宮城大学 自治体との協働による被災地域の復興・再生・発展を担う人材育成プログラム」

2018年度（平成30年度）

Web媒体（自治体）

▶白石まちづくり株式会社 蔵富人

Facebookページ掲載 6月6日(地域フィールドワーク)

▶美里町 起業創業サポートセンター kiribi Facebookページ掲載
4月25日、6月6日(地域フィールドワーク)、10月17日(CP実践論)

自治体広報誌

▶市報ひがしまつしま 7月1日号掲載(地域フィールドワーク)

テレビ

▶ミヤギテレビ OH!バンデス 2018年6月18日放送
(地域フィールドワーク6月6日講義:東松島でのフィールドワークの様子)

▶東北放送 Nスタみやぎ 2018年11月15日放送
(CP実践論11月14日講義:丸森町でのフィールドワークの様子)

新聞

▶河北新報 2018年10月28日掲載(CP実践論10月24日講義:美里町)

▶河北新報 2019年1月18日掲載(CP実践論1月9日講義:最終報告会)

▶河北新報 2019年2月18日掲載

(復興人材育成セミナー2月9日:宮城学院女子大学×宮城大学合同活動報告会)

事例発表等(学会等)

▶郷古雅春・中沢峻・千葉克己・高橋信人・佐々木秀之(2018)
「地域連携実践教育プログラムと農業農村工学について」農業農村工学学会第67回大会講演会

▶高橋結・佐々木秀之・中沢峻・郷古雅春(2018)
「大学教育における地域系科目の増加とNPOの連携可能性」
日本NPO学会 第20回年次大会

▶高橋結・佐々木秀之・風見正三(2018)
「サービスラーニング科目における受講者の省察に関する研究」
日本計画行政学会 第41回全国大会

▶高橋結・中沢峻・佐々木秀之・郷古雅春(2018)
「地域人材育成に向けたアクティブラーニングモデルの構築」『季刊地理学』pp.38-39

▶郷古雅春・佐々木秀之・中沢峻・佐藤加奈絵・高橋結
仙台防災未来フォーラム2019ブース出展
「宮城大学復興に資する人材育成に向けた地域連携型実践教育プログラム」

2019年度（令和元年度）

自治体広報誌

▶広報わたり7月号掲載「地域課題を町歩きで考察 大学生がフィールドワーク」

テレビ

▶Nスタみやぎ 2019年6月24日放送
(6月23日被災沿岸フィールドワーク:ポर्टランド州立大学フィールドワークの様子)

新聞

▶河北新報(石巻かほく) 2019年6月5日掲載
(CP概論及び演習5月25日講義:石巻市牡鹿サイトビジット)

▶河北新報 2019年9月8日掲載
(学生企画:石巻市牡鹿地区荻浜での企画実施)

▶河北新報(石巻かほく) 2019年9月11日掲載
(学生企画:石巻市牡鹿地区荻浜での企画実施)

▶環境新聞(コラム) 2019年9月11日掲載
(コミュニティ・プランナープログラムについて)

▶大崎タイムス 2019年11月30日掲載
(学生企画:CPFW演習 古川大正浪漫デー)

事例発表等(学会等)

▶中沢峻・高橋結・佐藤加奈絵・佐々木秀之・郷古雅春 世界防災フォーラム

2019 ポスター発表「Joint Development and Implementation of a Community Engagement Model Practical Education Program Based on Disaster Response Expertise」2019年11月9日～12日

▶中沢峻・高橋結・佐藤加奈絵・佐々木秀之・郷古雅春 世界防災フォーラム2019 パネル展示

「Learning in tandem with the region: Community Engagement Model Practical Education Program」2019年11月9日～12日

▶宮城大学後援会「結城登美雄氏講演会&パネルディスカッション」
地域連携型実践教育パネル展示 2019年11月9日

2020年度（令和2年度）

自治体広報誌

▶市報とみや11月号掲載(地域連携型実践教育)

▶広報わたり12月号掲載「隠れた魅力を現地で発見」
(地域フィールドワーク課外10月31日)

テレビ

▶ミヤギテレビ OH!バンデス 2020年8月20日放送
(CPFW演習8月15日:坪沼農園での取材に協力)

新聞

▶ 河北新報 2020年8月11日掲載
(地域フィールドワーク7月29日講義:オンラインによる最終発表会)

▶ 大崎タイムス 2020年11月2日掲載
(学生企画:CPFV演習ふるかわRIDE)

事例発表等(学会等)

▶ 佐藤加奈絵・中沢峻・高橋結・友淵貴之・佐々木秀之(2020)
「公共施設の長寿命化計画の策定プロセスにおける産官学連携のあり方に関する一考察—大学でのPBL科目との連携に着目して」
日本計画行政学会第43回全国大会

2021年度(令和3年度)

テレビ

▶ 仙台放送 Live News イット! 2021年10月28日放送
(CP実践論 10月20日:七ヶ浜町でのサイトビジット)

新聞

▶ 日本農業新聞 2022年1月6日掲載
(2021年12月23日)A新みやぎからの奨学寄附金贈呈式)

事例発表等(学会等)

▶ 中沢峻・青木茂・阿部晃成・佐々木秀之・郷古雅春(2021)
「地域連携実践教育プログラムの共同開発と実践—宮城大学・兵庫
県立大学におけるコミュニティ・プランナーの育成」第1回全国農泊
ネットワーク宮城大崎大会

新聞

▶ 河北新報 2021年12月10日掲載(学生企画:CPFV演習スマホ体験会)

2022年度(令和4年度)

テレビ

▶ NHK仙台放送局てれまさむね 2022年5月11日
(学生企画:CPFV演習名取市みちのく潮風トレイルGuide Map)

▶ 日本テレビnews zero 2022年3月10日放送
(地域連携実践教育プログラム受講学生:復興を学ぶ現役大学生と
の3.11に関するディスカッション)

新聞

▶ 河北新報 2022年4月17日掲載
(学生企画:CPFV演習名取市みちのく潮風トレイルGuide Map)

▶ 石巻日日新聞 2022年9月13日掲載
(学生企画:CPFV演習まきびと図鑑)

事例発表等(学会等)

▶ 中沢峻・阿部晃成・田澤紘子・青木茂・佐々木秀之・郷古雅春(2022)
「宮城大学地域連携実践教育プログラム 履修者に対する自己評価
指標の開発と自己評価の試行」宮城大学研究ジャーナル第2巻第1号

▶ 中沢峻・阿部晃成・田澤紘子・青木茂・佐々木秀之(2022)
「地域志向教育プログラムの傾向に関する一考察—宮城大学地域
連携実践教育プログラムの類似事例を題材として」宮城大学研究
ジャーナル第2巻第1号

▶ 郷古雅春(2022)
「農村地域の振興に向けた大学教育プログラム」農村振興vol.873・
全国農村技術連盟

▶ 佐々木秀之(2022)「行政と大学の連携」日本マーケティング学会
カンファレンス2022・地域活性化マーケティング研究会

▶ 佐々木秀之・中沢峻(2022)
「地域探究に活かすフィールドワークの実践」株式会社オーナー主催
オンラインセミナー

テキスト

▶ 佐々木秀之・中沢峻編著(2023)
『地域フィールドワーク実践入門—地域探究の道しるべ』蕃山房、
2023年3月1日発行

2023年度(令和5年度)

Web媒体

▶ るるぶ&more. Webサイト掲載
<http://rurubu.jp/andmore/article/20827>(CP実践論)

新聞

▶ 河北新報 2023年6月2日掲載(地域フィールドワーク:塩竈市)

▶ 大崎タイムス 2023年6月10日掲載
(地域フィールドワーク:大崎市鳴子)

事例発表等(学会等)

▶ 森本素子 宮城大学移動開放講座
講演「宮城大学生の地域への関わりと学び」2023年9月30日
▶ 秋保地区地域活動のつどい(公財)仙台観光国際協会ブース展示
内「さかいの創生会×宮城大学コラボ企画」2024年1月27日

ラジオ

▶ tbcラジオ GoGoはみみこい ラジオな気分「とーくぱーく」
2023年12月19日放送(学生企画:CPFV演習 塩竈市浦戸諸島
「ぼかぼか浦戸」)

2024年度(令和6年度)

Web媒体

▶ 一迫観光協会
2024年11月6日 Webサイト掲載(CP実践論:10月30日サイトビジット)
自治体広報誌

▶ 広報しおがま 7月号掲載「宮城大学の学生が浦戸を実地調査！」
(地域フィールドワーク)

新聞

▶ 河北新報 2024年12月19日掲載
(CP実践論:栗原市一迫ゆり園再生プラン発表会)

事例発表等(学会等)

▶ 佐々木秀之 宮城大学移動開放講座
講演「コミュニティ・プランナープログラムによる地域人材育成の
可能性」2024年7月20日

▶ 佐々木秀之 日本マーケティング学会 第27回地域活性化マーケ
ティング研究報告会

報告「大学の事例—学生の関わり方:関係人口から活動人口への
進化による地域活性化」2024年11月11日

テキスト

▶ 佐々木秀之・中沢峻・友淵貴之編著(2024)
『地域共創型実践教育・入門—コミュニティ・オーナーシップの醸成
を目指して』北樹出版、2024年8月発行

2025年度(令和7年度)

Web媒体

▶ 蔵王ジオパーク(蔵王ジオパーク推進協議会)
Facebookページ掲載 5月29日、5月21日(地域フィールドワーク)

事例発表等(学会等)

▶ 佐々木秀之 日本マーケティング学会「地方自治体のシビックエン
ゲージメント受け入れ事情と地域活性化」2025年10月12日

地域連携実践教育のあゆみ

2012年度（平成24年度）

文部科学省 大学間連携 共同教育事業 採択事業
宮城大学・兵庫県立大学
「コミュニティ・プランナー育成のための実践的教育課程の構築」
試行プログラム(部会活動等)を実施

2013年度（平成25年度）

コミュニティ・プランナーカリキュラム検討、試行授業実施
試行プログラム(部会活動・兵庫宮城学生交流会等)を実施

2014年度（平成26年度）

CP科目 開講
コミュニティ・プランナー教育センター(CPEC)運営開始
1(2)年次前期 CP概論(大崎市古川地区):履修学生144名
1(2)年次後期 CP基礎演習(大崎市古川地区):履修学生68名

2015年度（平成27年度）

2(3)年次前期 CP実践論(大崎市古川地区):履修学生15名
1年次前期 CP概論(大崎市鳴子温泉・鬼首):履修学生71名
1年次後期 CP基礎演習(大崎市鳴子温泉・鬼首):履修学生37名

2016年度（平成28年度）

地域フィールドワークカリキュラム検討開始
(10月部門設置)文部科学省 事業終了
第1期生 卒業・CPアソシエイト授与者3名
3(4)年次前期 CPFW演習(大崎市古川地区):履修学生9名
2年次前期 CP実践論(大崎市鳴子温泉・鬼首):履修学生22名
1年次前期 CP概論(大崎市岩山地区):履修学生157名
1年次後期 CP基礎演習(大崎市岩山地区):履修学生81名

2017年度（平成29年度）

宮城県「宮城大学復興人材育成事業」にて事業実施
宮城大学 学群学類移行
1年次 全学必修科目 地域フィールドワーク 開講
第2期生 卒業・CPアソシエイト授与者6名
3年次前期 CPFW演習(大崎市鳴子温泉・鬼首):履修学生21名
2年次前期 CP実践論(大崎市岩山地区):履修学生18名
1年次前期 地域フィールドワーク(大和町、富谷市、利府町、蔵王町):
履修学生437名

2018年度（平成30年度）

第3期生 卒業・CPアソシエイト授与者20名
3年次前期 CPFW演習(大崎市岩山地区):履修学生12名
2年次前期 CP概論及び演習:履修学生60名
2年次後期 CP実践論(美里町、丸森町耕野地域):履修学生43名
1年次前期 地域フィールドワーク
(東松島市、加美町、美里町、岩沼市、白石市、村田町):履修学生431名

2019年度（令和元年度）

第4期生 卒業・CPアソシエイト授与者12名
3年次前期 CPFW演習
(大崎市鳴子温泉地域、大崎市古川地区、仙台市定禅寺通り、丸森町):
履修学生31名
2年次前期 CP概論及び演習(石巻市牡鹿地区):履修学生118名
2年次後期 CP実践論
(大崎市松山地区、富谷市しんまち地区、石巻市牡鹿地区萩浜、白石市):
履修学生63名

1年次前期 地域フィールドワーク
(大崎市松山地区、加美町、美里町、女川町、亶理町、白石市):履修
学生452名

2020年度（令和2年度）

第5期生 卒業・CPアソシエイト授与者30名
3年次前期 CPFW演習
(大崎市古川地区、白石市、仙台市泉区根白石地域、富谷市、石巻市
牡鹿地区萩浜地域、仙台市青葉区中心街、仙台市太白区坪沼地域):
履修学生45名
2年次前期 CP概論及び演習:履修学生110名
2年次後期 CP実践論(白石市、亶理町):履修学生63名
1年次前期 地域フィールドワーク
(大崎市田尻地区、女川町、亶理町):履修学生444名

2021年度（令和3年度）

第6期生 卒業・CPアソシエイト授与者44名
3年次前期 CPFW演習
(栗原市、東松島市、富谷市、仙台市泉区根白石地域、仙台市太白区
人來田地域、名取市閑上地域、亶理町荒浜地域):履修学生33名
2年次前期 CP概論及び演習:履修学生80名
2年次後期 CP実践論(七ヶ浜町、村田町):履修学生31名
1年次前期 地域フィールドワーク
(大崎市鹿島台地区、女川町、亶理町):履修学生454名

2022年度（令和4年度）

第7期生 卒業・CPアソシエイト授与者34名
第1期生 修了・CP授与者1名(大学院プログラム)
3年次前期 CPFW演習
(石巻市内、同市雄勝地区、大崎市岩山地区、蔵王町、利府町):履修
学生17名
2年次前期 CP概論及び演習:履修学生75名
2年次後期 CP実践論(柴田町、仙台市太白区秋保地区):履修学生
39名
1年次前期 地域フィールドワーク
(大崎市三本木地区、女川町、村田町、亶理町):履修学生452名

2023年度（令和5年度）

第8期生 卒業・CPアソシエイト授与者18名
第2期生 修了・CP授与者1名(大学院プログラム)
3年次前期 CPFW演習
(大崎市古川地区、塩竈市浦戸諸島、松島町、仙台市泉区泉中央地区・
将監地区、仙台市太白区秋保地区・長町南地区):履修学生31名
2年次前期 CP概論及び演習:履修学生26名
2年次後期 CP実践論(県南地域2市9町、仙台市太白区秋保地区):
履修学生22名
1年次前期 地域フィールドワーク
(大崎市鳴子地区、塩竈市、女川町、村田町、亶理町):履修学生446名

2024年度（令和6年度）

第9期生 卒業・CPアソシエイト授与者30名
第3期生 修了・CP授与者1名(大学院プログラム)
3年次前期・後期 CPFW演習Ⅰ・Ⅱ
(七ヶ浜町、柴田町、名取市閑上地区):履修学生11名
2年次前期 CP概論及び演習:履修学生50名
2年次後期 CP実践論(栗原市一迫地区、仙台市太白区秋保地区):
履修学生42名
1年次前期 地域フィールドワーク
(大崎市岩山地区、塩竈市浦戸諸島、加美町、女川町、石巻市):
履修学生446名

2025年度（令和7年度）

第10期生 卒業・CPアソシエイト授与者12名

第4期生 修了・CP授与者2名

3年次前期・後期 CFPW演習Ⅰ・Ⅱ

（大和町、東松島市、多賀城市、名取市閑上地区、仙台市青葉区みやぎ台地区、仙台市太白区秋保地区）：履修学生33名

2年次前期CP概論及び演習：履修学生29名

2年次後期CP実践論（白石市、仙台市太白区秋保地区）：履修学生19名

1年次前期地域フィールドワーク（加美町、蔵王町、白石市、石巻市）：履修学生444名

CPアソシエイト及びCP授与者のこれまでの就職先（今年度内定を含む）

●公務員

国土交通省 東北地方整備局
岩手県
石巻市（宮城県）
大館市（秋田県）
柏崎市（新潟県）
大和町（宮城県）
登米市（宮城県）
千葉県
栗原市（宮城県）
仙台市（宮城県）
多摩市（東京都）
宮城県
福島県
東北運輸局
米沢市（山形県）
岩手県警察
青森県
熊本市（熊本県）
柴田町（宮城県）

●教育・医療・研究機関

京都大学医学部附属病院
国立大学法人東北大学
東北大学病院
国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
学校法人東北工業大学
独立行政法人地域医療機能推進機構東北地区事務所

●金融関係

（株）荘内銀行
東北労働金庫
盛岡信用金庫
（株）北日本銀行
古川信用組合
（株）七十七銀行
宮城第一信用金庫
（株）青森銀行
三菱UFJ信託銀行（株）
（株）山形銀行
石巻信用金庫

●企業・団体

会津よつば農業協同組合
（JA会津よつば）
伊藤建設（株）
NECネットイノベーション（株）
NTT東日本（株）
（株）奥羽木工所
大蔵山スタジオ（株）
（株）コメリ
JA東日本くみあい飼料（株）
鈴木農場
（株）ソルブレイン
（株）DNPデジタルソリューションズ
（株）TTK
（株）東広社
東北電力（株）
なんと農業協同組合（JAなんと）
日鉄日新製鋼（株）
パーソルプロセス&テクノロジー（株）
（株）ピーエス三菱
福山通運（株）
マックスバリュ南東北（株）
三井住友海上火災保険（株）
ヤマカノ醸造（株）
ヤマニ建設（株）
自営業
イオンリテール（株）
エームサービス（株）
オリジン東秀（株）
カルチュア・コンビニエンス・クラブ（株）
国分東北（株）
太子食品工業（株）
東日本旅客鉄道（株）
富士通Japan（株）
ベイシス（株）
丸西産業（株）
宮城県商工会連合会
宮城県信用保証協会
（株）トラストライフ
（株）Wiz
（株）おおみ

（株）クスリのアオキ
（株）スズキ自販宮城
（株）ゼウス・エンタープライズ
（株）パル
（株）メンバーズ
（株）サングリーン太陽園
（株）ケアリッツ・アンド・パートナーズ
（株）東流社
（株）イーuston
こころネット（株）
（株）加島屋
イオン東北（株）
（株）インターレイズ
（株）KDDIエボルバ 仙台センター
日本住宅（株）
エン・ジャパン（株）
アイ・ティー・エックス（株）
東京システムハウス（株）
データコム（株）
（株）藤崎
（株）カチタス
（株）NEXTスタッフサービス
中央開発（株）
東急リパブル（株）
（株）SJC
東北放送（株）
中央システム（株）
トランスコスモス（株）
JR東日本東北総合サービス（株）
アイリスオーヤマ（株）
東北インテリジェント通信（株）
（株）英進
総合キャリアグループ
（株）マクロミル
住友生命保険（株）
須賀川特撮アーカイブセンター
三菱重工エンジンシステム（株）
野口倉庫（株）
石巻商工会議所
DCM（株）
日本電設工業（株）

WHILL（株）
ITXコミュニケーションズ（株）
（株）ヨークベニマル
みやぎ生活協同組合
JA福島さくら農業協同組合
カメイ（株）
（株）SKホールディングス
（株）オオバ
三菱電機住環境システムズ（株）
（株）ピーシーデポコーポレーション
（株）ANAエアサービス福島
（株）全農ビジネスサポート
全国健康保険協会
東社シーテック（株）
（株）東北日立
野村不動産パートナーズ（株）
（株）星野リゾート・マネジメント
宮城交通（株）
（株）FoundingBase
（株）NTKセラテック
（株）NTTデータ東北
エリクソン・ジャパン（株）
（株）セコマ
仙台農業協同組合
タスキー税理士法人
（株）ベストファーム
（株）ユーメディア
（株）ラプラス
社会保険診療報酬支払基金
大和ハウスリアルティマネジメント（株）
東京海上日動火災保険（株）
あいおいニッセイ同和損保（株）
（株）泉パークタウンサービス
第一生命保険（株）
日本年金機構
ルートイングループ
若築建設（株）

ANNUAL REPORT 2025



公立大学法人
宮城大学
MIYAGI UNIVERSITY

お問い合わせ

宮城大学 地域連携実践教育推進室

大和キャンパス

宮城県黒川郡大和町学苑1-1 TEL:022-377-8649

Email:cp-suishins@myu.ac.jp (受付時間/平日9:00~17:00)